



ポリヌ・ガルシア=ヴィアルド関連年譜

1821：7月18日パリ、リシュリュエ通りで生まれる
1825：ガルシア一家、ニューヨークにイタリア・オペラ巡演
1828：ガルシア一家、メキシコ巡演：当地で盗賊団の襲撃に遭い
大損害蒙る
1829：フランス帰郷
1830：父マヌエルが舞台から引退して教育に専心、
ポリヌがその伴奏を受け持つ
1832：父マヌエルがパリで死去、彼は歌唱、演技、作曲、記憶力、
料理までも見事な腕前だった
1835：この頃からピアニストとして義兄ベリオとともに舞台出演
1836：姉マリアが落馬事故をきっかけにマンチェスターで急逝
1837：ブリュッセルで正式に歌手デビュー
1838：ライブツィヒでクララ・ヴィーク(のちシューマン)と出会う/
リストと出会い、生涯にわたるピアニストへの夢を育む
1839：ロンドンおよびパリでオペラ・デビュー/
サンドおよびショパンと出会う
1840：イタリア座支配人ルイ・ヴィアルドと結婚、新婚旅行先のローマでグ
ノーやファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼルと出会う/ルイ、妻の
ツアーに同道するためイタリア座を辞職/ロベルト・シューマン『リー
ダークライス』op.24をポリヌに献呈
1841：長女ルイズ誕生/ノアのサンド邸に初めて滞在
1842：スペイン・ツアー/サンド、ポリヌをモデルにした『コンシュエロ』
連載(→1844)/サル・プレイエルでショパンと共演/イタリア座で
ロッシーニ『セミラミス』出演

1843：ロシアに初のツアー(→以後44,45,53年にも)/
ツルゲーネフと出会う
1844：パリ東南のクールタヴネルの城館を購入(64年に売却)
1845：ツルゲーネフがフランスに来訪(→以後たびたび往復)
1847：ドイツ各地にツアー
1848：二月革命/カンタータ『新しい共和国』作曲・上演/
ドウエ街の家購入/ロンドンでショパンと共演/
各地でドニゼッティ『夢遊病の女』などオペラ出演
1849：マイアベーア『預言者』パリ初演/
ショパンの葬儀でモーツァルト『レクイエム』を歌う/
グノーとの交流がツルゲーネフと並ぶほど親密になる
1850：ツルゲーネフがペテルブルクで1856年まで拘留される
1851：グノー『サッフォー』パリ初演/ルイ・ナポレオンのクーデター
1852：次女クローディ誕生
1854：三女マリアンヌ誕生(→77年フォーレと婚約するもすぐに破談)
1855：ロンドンでヴェルディ『トロヴァトーレ』のアズチーナを歌う/
同地でモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』自筆楽譜を購入
1857：末子ポール誕生
1859：ベルリオーズとグルック『オルフェオ』のフランス版を協働、初演
1860：ベートーヴェン『フィデリオ』出演/ヴァーグナー『トリスタンとイゾル
デ』第2幕を作曲家とともに自宅で試演
1861：イタリア、ドイツ、フランスの巨匠たちの作品に多角的な解説を施し
た『古典歌曲集』の膨大な選集の出版開始(→1891再刊)

1862：サル・エラールにてクララ・シューマンと共演/
この頃『女子職業教育協会』に寄附
1863：テアトル・リリックでの『オルフェオ』を以って表向きには舞台より引退/
バーデン=バーデンに転居/ルイズ、外交官エルネスト・エリットと結
婚/ベルリオーズ『トロイ人』パリにてポリヌ抜きで初演、両者の関係
冷却
1864：母ホアキナがブリュッセルで死去/クールタヴネルの城館を手放す
1867：ツルゲーネフの台本によるオペレッタ『最後の魔術師』初演
(→以後各地で再演)
1870：普仏戦争/バーデン=バーデンからロンドンへ移住/
イェナにてプラームス『アルト・ラプソディ』初演
1871：ポリヌ死去の噂流れる
1872：パリ帰郷、ドウエ街“木曜サロン les jeudis”再開/カヴァイエ・コル製オ
ルガンも再設置/パリ音楽院声楽教授に就任(→75年辞任)
1873：マスネのオラトリオ『マグダラのマリア』初演(オデオン座)で主役、
大成功/シュベルトのリート50を選曲、ポメイの仏語訳を付して監
修・出版
1874：ブジヴァルに別邸購入、ツルゲーネフも做う/
サン=サーンス『サムソンとダリラ』試演
1877：グリーク『ピアノ協奏曲』をマリアの息子のソロ、
ポリヌのオケ・ピアノで試演
1880：『1時間で学ぶ女声のための練習曲集』2巻を出版
1881：ツルゲーネフ最後の短編小説『恋の凱歌』出版

1883：5月5日夫ルイ、パリで死去/
9月3日ツルゲーネフ、ブジヴァルで死去
1884：フランクフルトで共に寡婦となった幼馴染クララ・シューマンと
最後の出会い
1885：サンジェルマン・デプレ通りに転居/オルガンをムラン市教会に寄贈
1886：チャイコフスキーが初来訪、ポリヌに魅了され、以後たびたび面
談/リストの要請でサン=サーンス『動物の謝肉祭』を自宅で試演
1890：歌曲『日本娘』を『6つの歌曲集』に収録・出版
(→1896年のパントマイムへ)
1892：『ドン・ジョヴァンニ』自筆譜をパリ音楽院図書館(→現BNP)に寄贈
1896：ピアノ伴奏によるパントマイム『日本にて Au Japon』作曲・上演
1901：レジオン・ドヌール受勲/レイナルド・アーンと『ドン・ジョヴァンニ』の
自筆譜をめぐって音楽談義
1904：オペレッタ『シンデレラ』作曲・上演(台本も自製；1972年に生誕150
年を祝いイギリスで再演)
1906：兄マヌエル二世がロンドンにて101歳で死去
1910：5月18日、自宅で死去/サント・クロチルド教会にて葬儀、サン・サー
ンスとマスネが弔辞/モンマルトルに埋葬/当時孫7人、曾孫4人
1941：12月11日ポール、パリ音楽院分院長として赴任先のアルジェリアで
死去